

2015年12月27日(日)朝10:10～
12月第4年末共同主日礼拝式説教

降誕節第1、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**愛**において**歩く**ことが、
神の掟である

聖書：Ⅱヨハネ 1章4～6節

<口語訳>

新約聖書382頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節

<新共同訳>

新約聖書448頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節

<新改訳第3版>

新約聖書472頁

Ⅱヨハネ 1章4～6節<塚本訳>

新約聖書769頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **Ⅱヨハネ書**も、**グノーシス派**等一般に総括的に表現されています人々の**主イエス様の神性否定の教えと乱れた生活への警告書簡**で、**神のみことばそのもの**であることをヨハネ自身の**実体験**を通して、**神の御子を喜び、あかしすることを求め、神の祝福を祈ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章1～3節**は、**父なる神と神の御子主イエス様からの真実の愛**を受けとめ、**生きる教会**であってほしいとの**使信を認めたもの**と、ヨハネは語ります。
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章4～6節**は、「**兄弟愛**」を**神の教会への「神の掟・命令」**であると、ヨハネは語っています。
- ⇒「**真理**」を「**真実な神から受けた愛**」と、**1～3節**で、ヨハネは語っていましたが、この箇所でも、基本的には同じで、さらに強調していますのは、「**真理のうちに歩んでいる**」(4)と、「**神の命令**」に従って、「**兄弟愛の生活**」を**実践しているかどうかを問うていること**です。
- ⇒**ヨハネ福音書**や**Iヨハネ書**で見たように、**神は、神の御子を世に派遣、十字架につけた。**

本論；

◇本日、Ⅱヨハネ書1章4～6節から主の使信に思い・心をとめます。

◆Ⅱヨハネ1章4節；ヨハネは、神の真理の中の歩んでいる人たちがいることを認めて、喜んでいます。

◇4～6節；塚本訳◆互いに愛せよ

「1 わたしはあなたの子供たちの中に、わたし達が父から受けた掟どおりに、真理において歩いている者があるのを見て非常に喜んだ」と、ヨハネは語ります。

◇4節；わたし(ヨハネ)は、「あなたの子供たち(教会の人たち)」の中に、「わたし達が父から受けた掟」どおりに、「真理において歩いている者があるのを見て」、「非常に喜んだ」と、ヨハネは語ります。

⇒「心を尽くして神を愛し、自分を愛するように、隣人を愛せよ」は、神の御子、主イエスキリスト様が、弟子たちに与えた「神の掟・命令」です。

⇒神によって創造された人間が、今も共に生きて下さる神を愛し、心から服従することです。

- ⇒**神**によって**創造**された**人間**が、互いに**赦し合う**ことです。
- ⇒この「**神の掟・命令**」は、**神**に**神創造**された**すべての人間**への「**命令**」で、「この**命令**」に**服従**する人々は、「**神との交わり**」、すなわち、「**神の永遠のいのち**」を受けけるのです。
- ⇒この「**神の掟・命令**」に**服従**することを拒む人々は、「**神との交わり**」=「**神の永遠のいのち**」に与れないのです。
- ⇒これが、「**神の真理**」で、時代を超えて、変わることのない**事実**だと、**ヨハネ**は、**Ⅱヨハネ書 1章1～3節**で語っているのです。
- ⇒「**神の真理**」は、**神の愛**を知った人たち、**キリスト者・クリスチャン**と呼ばれる人々として**例外**ではないのです。
- ⇒「**兄弟愛**」に生きないで、口先だけの生活では、「**神の愛**」は、相手に伝わらないことを知るのです。
- ⇒**ヨハネ**は、「**真理**において歩いている者があるのを見て」、「**非常に喜んだ**」のです。
- ⇒**神**は、「**恵み**(**ヘブル語**では**ヘセド**)」のお方で、**知性**、**感情**、**意志**の**すべて**に**寄り添**われる。

◆ Ⅱヨハネ1章5～6節 ;ヨハネは、神の愛において歩くことが、神の掟・命令そのものであると、語っています。

◇ 4～6節 ;塚本訳◆互いに愛せよ

「5 貴女(教会の人)よ、それで今、あなたに願う——これは新しい掟をあなたに書くのではない、(イエスが来られた)始めから、わたし達がもっているのであるが——互に愛しようではないか。

6 わたし達が神の掟に従って歩くこと、それが愛である。あなた達が始めから聞いたように、愛において歩くこと、それが掟である」と、ヨハネは語ります。

◇ 5～6節 ;「新しい掟」としてではなく、「(イエスが来られた)始めから、わたし達がもっている神の掟に従って歩くこと」が、「愛である」から「あなた達が始めから聞いた(命令)」が、「神の掟である」、「互に愛しよう」と、ヨハネは語ります。

⇒「神の掟に従って歩くこと」=「互に愛しよう」に集約して、神の教会の人たちに「勧告」しています(ヨハネのメッセージなのです)。

- ⇒ **6節** ; の神の「**掟** エントラス ἐντολάς」だけが複数形になっていますが、ヨハネは、「**神の掟に従って歩くこと**」の各自の「**歩み・生活**」があることを強調しているようで、**Ⅱヨハネ書の注解者マーシャル**が、「**神の掟**」の内容の広範さをさしているという立場ではない。
- ⇒「**神の掟**」は、「**互に愛しよう**」にヨハネによって、集約されたとしても、「**互に**」の状況は、違ってきますし、相手にとって、何が「**愛の行為である**」かは、異なっていて、一律ではありません。
- ⇒「**ヘセドの神**」が、自分の思い優先ではなく、「**神の掟・命令**」に服従できない弱く、脆い私たちの知性、感情、意志に寄り添って下さるように、「**神に寄り添ってもらった自分**」を愛するように、「**互に隣人として愛しよう**」との**先輩長老ヨハネ**の「**暖かい勧告のことば**」として聴きたいと願います。
- ⇒**ヨハネ福音書15章12節** ; 「**わたしがあなた達を愛したように、互に愛せよ。——これがわたしの掟である**」と**神の御子主イエス様**も、**十字架の死**をかけて語って下さったのです。

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **Ⅱヨハネ書**も、**グノーシス派**等一般に総括的に表現されています人々の**主イエス様の神性否定の教えと乱れた生活への警告書簡**で、**神のみことばそのもの**であることをヨハネ自身の**実体験**を通して、**神の御子を喜び、あかしすることを求め、神の祝福を祈ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章1～3節**は、**父なる神と神の御子主イエス様からの真実の愛を受けとめ、生きる教会であってほしいとの使信を認めたものと、ヨハネは語ります。**
- ◇ **Ⅱヨハネ書1章4～6節**は、「**兄弟愛**」を**神の教会への「神の掟・命令」**であると、ヨハネは語っています。
- ⇒ **世への勝利は、神の御子キリストの勝利**です。
- ⇒ **「心を尽くして神を愛し」、「自分を愛するよう**
にあなたの隣人を愛する」が神の愛の掟。
- ⇒ **「神を愛する礼拝」**の中にあることが、「**兄弟を愛する**」ことの鍵で、**神は、「兄弟の相互愛」で、神の愛を表現、「現実化」が求められています。**
- ⇒ **「互に愛しよう」の勧告のことばを聴きたい。**